

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

天理市立福住中学校

教諭 小迫 雅和

1. 単元名 「将来にわたって暮らせる福住校区を考えよう ～モアイは語る～」

2. 単元の目標

- ・「森林は、文明を守る生命線」という教科書の主旨を理解し、その主旨を生徒自身の言葉で具体的に説明することができる。 (知識及び技能)
- ・国土地理院発行の地形分類地図や生徒自身の経験、調査したことをもとに課題を見だし、地域住民や生徒自身が将来にわたって暮らせるための方策を考えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・生徒自身を含めて天理市立福住中学校校区で暮らす人たちが安心して暮らせるようにしたいという目的意識を持ち、意欲的に森林の活用方法をプレゼンにまとめることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、光村図書「国語2」に収録されている「モアイは語る」を導入教材として取り上げる。生徒自身が暮らす福住地区にある森林に実際に足を運ぶことで、活動への意欲を高めることができる。また、実際に足を運ぶことで地域の実態を把握したり、これからの活動に具体性をもたせたりすることが期待できる。さらにはプレゼンテーションを用いて発表することを通して、新たな視点を発見したり、考えを深めたりすることができる。

また、昨年 of 日本各地や奈良県で獣害に見舞われたことを取り上げる。このことを通して、森林の役割について確かな知識を主体的に得ようとするとともに、よりよい森林にするために生まれる間伐材の活用方法を提案し、プレゼンテーションを作成するなど、より相手意識をもって活動することができるようになるよさがある。

(2) 生徒観

本学級の生徒は小学部において、米や野菜の栽培の学習をしてきている。その学習を通して、植物の生育は時間がかかることや適切な生育には人間の手が必要な場合もあることを学んできている。

また、定期的に行われている新聞学習を通して、社会的な事象や身の回りの実態などから課題を見つける力がある。さらに探求の時間ではクラスメイトとの対話をとおして考えを交流することができるので本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、「モアイは語る」の主旨を読みとる。「モアイは語る」ではイースター島で森などの自然とともに暮らしていたポリネシア人が生活を豊かにするために自然環境を破壊してしまい滅亡してしまう姿と現代の地球で暮らす人類の姿との共通点を照らし合わせることを通して、自然環境をないがしろにする人類への警鐘を鳴らした説明文である。この説明文の主旨について具体的な内容を考えさせることを通して、森林についての課題意識を持たせたい。

次に、実際に学校周辺の森林の現地調査を行い、地域の森林の現状について学ばせる。その際、1950年代と現在の福住地区の地形を比較した上で、現状の問題点について考えさせることで意欲やさらなる課題意識を持たせる。また、他地域で森林の保全について取り組んでいるゲストティーチャーを招き、日本の全国的な課題であることや森林を保全することで地形が変化することに気づかせ、地元を離れたとしても考えていかないとならない課題であるということや保全活動によって必ず変化が起こる希望を生徒に持たせたい

そして、昨年起こった日本各地での獣害を想起させるとともに、獣害の新聞記事を提示し、森林の保全が大切であることに気づかせる。その上で森林の保全について自分たちにできることをまとめたプレゼンテーション作りをする。

さらに、これらの活動を通して、実際に自分たちにできることはないだろうか話し合わせることを通して、これからの活動にもつなげていくようにする。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…人類にとって森林は必要不可欠なものであり、それは他の動物にとっても同じであるということ。

相互性…人類が森林を手入れすることによって、人類と動物が大きく干渉せず共存できる環境ができるということ。

有限性…自然環境は有限でバランスを保つことで維持されている。そのバランスをとるのは我々人類であるということ。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

地形図の変化をもとにこれからの福住校区の森林地形を予測し、対策を考えることで動物と共存できるまちづくりの計画をする。

つながりを尊重する態度

森林保全が人類だけではなく動物も守ることにつながるという学びを通して、様々な生き物の命を尊重しようとする。

・ **本学習で変容をうながす ESD の価値観**

自然環境、生態系の保全を重視する

人類だけではなく、動物も含む自然環境と共存するまちづくりが大切である。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する。

人類だけが幸せになることを求めることが、将来的に人類の幸せになるとは限らない。

・ **達成が期待される SDGs**

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 5 自然と共存できる陸上資源を

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①森林の良さ保全の必要性についての知識について理解している。</p> <p>②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図などを用いてそれらを関係づけながらまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>①森林の現地調査や資料、ゲストティーチャーの話をもとに課題を見だし、自然と共存するための方策を考えている。</p> <p>②森林の保全について学んだことや考えたことをプレゼンテーションに表現している。</p>	<p>①校区の人たちと自然を共存させたいという目的意識を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>②プレゼンテーションづくりを通して、森林の保全について、自分にできることを模索しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全10時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 「モアイは語る」の主旨を読みとったうえで、福住の森林が保全されているかを考え、課題と今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木がたくさんあるし、伐採はあまりされていないな。 ・いろいろな生き物が暮らしているね。 ・このまま放置するともっと森林が増えそうだな。 	<p>○福住校区の過去の地形図と現在の地形図を提示、森林が増えていることに着目させ、手つかずの森林が増えている課題を明確にさせる。</p>	<p>イ①（思判表）</p>
<p>2 森林の保全がどういう状況なのか、日本各地で同じような状況であることを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木がたくさんあるだけだとダメなんだね <p>3 福住校区の森林が保全されているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木が多くて暗いし、倒木で歩きづらかったよ。 ・生き物はいっぱいいたね。 <p>4 活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままだと誰も住めない地域になってしまうな。 ・何かできることはないだろうか。 	<p>○ゲストティーチャーから話を聞き、活動の意義をつかませる。</p> <p>○地域の実態をつかませる。</p> <p>○今後の活動へと発展させるために、できることを考えさせる。</p>	<p>イ①（思判表）</p> <p>ウ①（主体的）</p>
<p>5 森林と獣害について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本全国各地で人が亡くなったり、怪我をしたっている。 ・自分たちも登下校が不安だった。 ・森林の保全について考えられないかな。 <p>6 「文明を守る生命線」としての森林環境を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の近くの地域にも人が住み続けられるようなまちづくりをしないといけないね。 ・森林保全のために間伐した木材の活用方法を考えないといけないね。 <p>7 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも間伐材を使ったり、森林の保全に貢献したりしよう。 	<p>○日本全国各地で起こった獣害の新聞記事を提示し、森林の保全が大切であることに気づかせる。</p>	<p>ア①（知・技）</p> <p>ア②（知・技） イ② （思判表） ウ②（主体的）</p>